

特集
住みよい江別、
楽しい江別、
もっとよくできる江別。

あなたは、なぜ

江別市

に住んでいますか？

江別市は「ちょうどいいまち」と言われることがあります。

地価が札幌市よりも手頃で、

市内に駅が5つもあって、

身近にスーパーやドラッグストアがあって、

住むには申し分ないまちですが、

住みよいベッドタウンとして選ばれていること以外に、

「江別の魅力って何？」と聞かれると、

答えに詰まる人が多いかも知れません。

実は今、いろいろな取り組みをする市民によって、

新たな江別の魅力が生まれてきています。

今回の特集では、市内で活発に活動し、

皆さんの生活に楽しさを添えている、

そんな人たちを紹介します。

あなたの知らない「江別市」が見つかるかもしれません。

情報でまちを便利に

Person.1

えべナビ！編集長

なかの まさる
中野 勝 さん



市内や近郊で起こった出来事や新店舗のオープン情報など、地元に着目した情報を発信しているサイト「えべナビ！」は、多くのアクセス数を集めており、江別を知るための重要な情報源となっています。このサイトはどのような思いで運営されているのでしょうか。

メディアよりも、「市民目線」を重視した「散歩ブログ」の集大成

仕事の息抜きから始まった「えべナビ！」

私は、ブログやホームページの運営・コンサルタントを^{なぐれい}生業としています。「えべナビ！」は、市内を歩き回って変化を記録する散歩ブログとして、東京から移住してきた13年ほど前に、仕事の息抜きで始めたのがきっかけです。

市内を歩いていると、都会とは違う閑静な街並みや原始林などの広大な自然が住宅街の近くにあることに驚きました。そこで、長年江別市に住んでいる人とは別の視点で記事を書いたら面白くなるのではないか、と思い「えべナビ！」に本格的に取り組み始めました。

当時、インターネット上には江別に関する情報が全然ありませんでした。競合するサイトがないので、江別の情報を集めたブログはアクセス（閲覧）数が伸びるだろうと考えていました。最初はなかなか伸びませんでした。そこで、アクセスしてもらえやすいページを作るために、今までの自分の知識を駆使しながら、さまざまな角度から市民が読みたくなる情報を研究しました。

情報で江別市民の暮らしをサポートしたい



自宅やカフェで作業することが多いです。情報は足で稼ぎます。

江別市は札幌市に近く、土地の値段も都会と比べて安いので、「住みやすい場所」というイメージが強いです。「えべナビ！」の記事でも、一般的にアクセス数が伸びるといわれるイベント情報や新店情報ではなく、「〇〇公園の桜が見頃」「△△公園の遊具が新しくなる」など普段の生活に密接に係わる情報へのアクセスが多いことが分かりました。

このような結果を受けて、散歩ブログから少しずつ「市民が読みたい情報を発信するブログ」へと変化していきました。現在は、マスメディア

や市のホームページとは少し違った「一市民が気になったことを市民目線で発信する」というコンセプトで、堅すぎなくて読みやすい記事を作成しています。より多くの市民に愛される「えべナビ！」になるよう、さらに研究を重ね、サイトを成長させていきたいです。

独自の目線で
情報発信
していきます！



江別の文化を創る

株式会社プリオンデ
代表取締役
デザイナー

やまざき
山崎 啓太郎 さん
けいたろう

市内に事務所を構えるデザイン会社で、市内のさまざまなデザインを手がけています。DJ としての一面も持っており、イベントや市内のバーに DJ として出没することもあります。(一社) えべつ観光協会の副会長を務め、イベント開催などもしています。

チャレンジする余白がある。江別こそ、チャンスがたくさんある

江別は「自分色」に染められる
株式会社プリオンデは、札幌にあった会社で、私が代表取締役になった時に、事務所を江別に移しました。

私は札幌学院大学出身で、江別にゆかりがあったこともあり、江別に家を建てて、札幌から移住してきました。

市内のカフェなどで仕事をしているうちに、店員さんと仲良くなり、そこから交友関係が広がり、どんどんデザイン制作の依頼が増え、気付けば私が作ったデザインを市内でよく見かけるようになりました。

実は、「江別でイベントなどをするとときは、仕事の前に友だちから始まる」ことが多いです。「江別を良くしたい」という思いを持った大人たちがカフェやバーでこんなことをしたいと話し、後日また集まって実現に向けて一緒に行動する、ということがよくあります。DJ イベントもこういう流れから始まりました。ただ、寂しく感じるのは、大学が多いのに、若者とはあまりそういう場で出会う機会がないことです。

江別市は「余白のあるまち」

だと思えます。住むには十分便利かもしれませんが、江別でライブやアート活動などを楽しめる場所は決して多くありません。そういう意味では、まだ特定の文化に染まっていないと私は思っています。余白があるということは、自分で新しい色を塗れる、チャレンジができると言えます。

自分の力で誇れるまちに

江別は、新しいチャレンジができる環境が整っていると思います。例えば、イベントなども、今までやってきた土壌がありますし、声をかけたら手伝ってくれる人もたくさんいます。つながりがほしい時は、カフェやバーに行つて、カウンターで隣の人に話しかけてみてください。気付いたらどんな輪が広がって、その人といろいろな挑戦をしているかもしれない。

もちろん、ベッドタウンとして江別はとても優れていますが、もつと江別を好きになれるように、自分の手で、自分色に江別を染めていけたら、自分が住むまちに誇りが持て、最高だと思えます。



街の灯台 喫茶ファロ
(野幌町 36-12)

レコードや本などの文化が交わり、自然と会話が生まれます。よくココで仕事をしています。

私のおすすめスポット



江別市子どもが主役の
まち宣言 ロゴ

COFFEE & GIFT
SaLoon
Machimura

旧町村農場内カフェ
SaLoon Machimura ロゴ

ノースアイランドビール
ロゴ



私がデザイン
しました!



江別に「呼び込む」

Person.3

株式会社拓北
専務取締役

ながせ
長瀬 祥治 さん

祖父母の代から引き継いだ学生寮を経営する三代目の経営者です。海外のレストランで働いていた経験や「若い頃からおいしいものを食べることは大切」という考えから、寮では手間を惜しまない食事を提供しています。同じ建物内に「カフェ & バー大麻」を開店し、2周年を迎えました。

「江別だから」よりも「かっこいいこと」をし続ける

江別の学生を支える寮

祖父母が始めた拓北寮を父母が引き継ぎ、私で三代目になります。私は京都の大学に通った後、東京、オーストラリアで働いていましたが、母からの連絡を受け、江別に戻ってきました。

一度きりしかない学生時代に彩りを添えられるよう、住環境や食事の面から学生を支えています。拓北寮では、寮内にジム室を作ったり、寮生が楽しめるイベントの場を設けたりしています。

そのなかでも、一番こだわっているのは「食事」です。毎日の食事は、一食たりとも無駄にしてほしくありません。栄養をしっかりと摂るには、おいしく食べてもらうことが大切です。そのために、味付けや見た目に工夫を凝らし、市内の芝木農園さんが育てた新鮮でおいしい野菜を使って、自然と箸が進む食事作りを心がけています。

また、寮で子どもが何を食べているのか親御さんも気になると思います。そこでSNSで調理風景を発信することにした。すると、どんな動画の視聴回数が増えている

き、食に関心のある人が多いことを改めて実感しました。

社交場としてのカフェ&バー

大麻地区は大学が多いにもかかわらず、カフェが少なかったため、カフェ&バー大麻をオープンし、10月で2周年を迎えました。メニューは、主に寮の料理を中心に提供し、品数が多いのも特徴です。

カフェができたことで、今まで寮の食堂で開いていたイベントをカフェで開催できるようになり、学生と地域が交流できる場になりました。道内や東京、九州などさまざまな場所に住んでいる人をゲストに呼んでイベントを開催しています。

最近では、苫小牧市にあるお鮎屋さんを招き、カウンターでお鮎のコースを振る舞ってもらいました。他にも、全国的に活動しているアーティストやバーテンダーの方をバーに呼んで、ワークショップやライブを開催したところ、



寮のご飯SNSで発信中



多くの方が来店しました。

私たちは学生寮として46年間、地域に根付いた経営を続けてきました。地域に支えられてきたからこそ、今度は私たちが人を呼び込み、新しい風を吹かせたいと考えています。住む場所は、簡単に変える事ができないため、そこで何ができるかが大切だということも考えています。「江別だから」「江別の中で」といった固定観念にとらわれず、さまざまな人や文化を積極的に江別に呼び込むことで、新しい出会いや発見が生まれるきっかけになると感じています。この場所を通して、さまざまな人やイベントが集まり、江別の魅力を感じてもらえる場にしていきたいと思っています。



全て自家製の日替わりランチ。この日は寮でも提供された麻婆茄子。優しい味わいです。

すがわら
菅原隊員

ささき
佐々木隊員

CROSS ×TALK

ぶっちゃんけ！

楽しくできる！

地域 域おこし協力隊として活動する5名の隊員にえべつの良いところ、もっと伸ばせると思うところを話してもらいました。

佐藤雅 江別はもつとブロッコリーをPRしても良いと思います。例えば、ほかのまちでいうと北竜町は「ひまわり」が有名で、街灯もひまわりのデザインにしていますよね。江別もそれくらいやってもらいたいんじゃない？

菅原 PRでいうと、江別は「れんがのまち」と一目でわかるくらいれんがの建物がたくさんあつたらうれしいですよ。例えば、れんがでできたゲームやアニメのキャラクターの像を作つて、そのファンを観光客として市内に呼び込んでみるとかどうですかね？聖地巡礼みたいな。

安東 ブロッコリーもれんがも有名だけど、江別市自体がベッドタウンで住みやすさを重視したまちづくりをしている印象があるからこそ、ちょっととがったことをやっても斬新で面白いかもしれないね。

佐々木 ブロッコリーって来年度指定野菜に登録されます

よね。そういうPRをしているのもプロモーションの一つになるよね。

佐藤雅 江別の特産品が、栄養価が高く、消費量も多い指定野菜になることはすごいことだからどんどんPRしていかないと。

ブロッコリーって、筋トレしてる人がよく食べるイメージありますよね。なんか、マッチョと掛け合わせてPRできないかな。

佐藤優 筋トレする人は、鶏むね肉とブロッコリーとプロテイン大好きだもんね。

菅原 ブロッコリーの良さをPRしたら、マッチョだけじゃなく子どもたちの親が「栄養価が高いから子どもに食べさせたい」と感じるきっかけにもなるし、良いんじゃないかな。

マッチョと掛け合わせるとなると：例えばボディアビルの大会を江別で開催して、優勝者には江別産ブロッコリー1年分プレゼントとか？

佐藤優 それはちょっと面白い。雅之さんに出てほしい。

PRの話だと、江別市の学校給食って、地元野菜が多く使われているんですよ。

佐々木 江別市の学校給食で

地域おこし協力隊メンバー



さとう まさゆき
佐藤 雅之隊員

江別市出身。お笑い芸人になるために上京。その後結婚し、Uターンで江別市に戻ってきて協力隊員になる。元お笑い芸人の強めなキャラクターが特徴。



あんど まさこ
安東 正子隊員

京都府京都市出身。パン屋めぐりが趣味で、ハルユタカを知ったときに、ちょうど江別市で協力隊の募集を発見。「北海道が私を呼んでいる」と感じ来江。



さとう ゆうたろう
佐藤 優太郎隊員

札幌市出身。札幌学院大学卒。大学のゼミで地域発展を学び、それを生かすために江別市の協力隊に応募。EBRIにあるアンテナショップの店長をしている。



すがわら こうへい
菅原 康平隊員

岩手県花巻市出身。道内の大学に進学してからずっと北海道に住んでいる。趣味は走る。かけっこ教室などを市内で手がける。プロギングを広めたい。



ささき ほなみ
佐々木 穂波隊員

兵庫県西宮市出身。大泉洋の出身地として知っていた江別を何度か訪れ、人の温かさに触れてココに住む！と決めた。自転車に興味で、どこまでも走っている。

地域おこし協力隊とは

都心部から過疎地域に移住し、特産品のPRや観光支援、農業などの地域活性化に取り組む制度です。隊員は自治体から委嘱され、1～3年の任期で活動しながら、定住や起業を目指します。

えべつはもっど

は、地場産（北海道産）の食材が約7割使われていることも、もつとアピールしてもいいと思うな。全国でもかなり高い水準だし。

安東 さすが北海道。道産食材がたくさん使われていると親御さんも安心できるもんね。

佐藤雅 やっぱり、もつと良さをPRすることが大事だね。住環境としても、スーパーが各地区にあつて、車がなくても住みよいし、JRで20分ぐらいで札幌駅に行けるし、札幌よりも地価が安いし。

佐々木 やっぱり私たちがPRしていくしかないですね。

菅原 江別って、人も情報も豊富だと思ふんですよね。札幌にも近いし。知り合いに江別に住んでるフリーランスの人が結構いるんだけど、そういう意味では、江別を仕事の拠点にするのも十分アリだと思う。

佐藤雅 あつ、市内の大学にお笑いサークルあるよね。一緒になんかやりたいなあ。お笑いライブとか。でも、江別にはやれる会場がないか…

佐藤優 確かに、使いやすい小劇場のような場所はないかも。場所があれば若者もチャ

レンジしやすいよね。

安東 もしかしたら、しっかりした場所じゃなくても、カフェなどで小さいライブくらいならさせてもらえるかもよ。カフェでイベントしてたりするし。

そういう、やりたいこととできることをマッチさせる何かがあつたら、江別はもつとチャレンジしやすいまちになるかもね。

佐々木 そういつながりを作るのって、都会だと仕事感が出てしまつてやりづらかったり、田舎だと距離感が近すぎて、逆にやりづらい、みたいなことがあつたりしただけで、江別って私の体感だとちょうどいい距離感だと思ふんですよね。それは江別に来てすぐ感じてて。

コミュニティが一つできたとしても、都会だともう一回同じ人と集まるのは難しいイメージだけど、江別くらいの規模だとま



た集まりやすい、というか。

菅原 程よく都会で、程よく田舎だからこそその良さがやっぱあるよね。

この対談を読んで、「こんなことがしたい!」と思いついた人がいれば、ぜひ何か一緒にやりたいですよ。

佐藤雅 いいね。どんどん江別盛り上がりますね。

江別は今でもいいまちにないけど、もつといいまちになれますよね。みんなで頑張ってくださいか!

まちはあなたのチャレンジで楽しくできる

住みよいまち「江別市」。でも、それだけではありません。江別市には、「住みよくて、楽しいまち」を目指して熱い思いを持って頑張る人がたくさんいます。また、日常を彩ってくれる情報、人が集まり、出会いが生まれる場、本格的な食やイベントなどを楽しめる場所があります。

あなたのチャレンジで、今住んでいる江別市をもっとよくできるかもしれません。江別市に「あなた色」をプラスして、まちをもっと彩り豊かにしませんか。

特集への感想をお待ちしています

▼ 郵送・ファクスで送る

〒067-8674 高砂町6 江別市広報広聴課宛

FAX 381-1070

▼ 市HPアンケートフォーム

市HP内「広報えべつ」を検索するか右の二次元コードを読み込んでください

